

多文化共生社会をめざして

あおもり 国際交流つうしん

NO. 154
2024.11

AOMORI INTERNATIONAL EXCHANGE JOURNAL



2024年10月27日（日） 「国際ふれあいフェスタinはちのへ」

目次 CONTENTS

- 02 特集：巻頭インタビュー
～ 青森中央学院大学 国際交流センター長 藤巻 啓森 教授 ～
- 03 特集：青森県の異文化理解
- 04 取組報告
- 05 お知らせ
- 06 外国人相談窓口、世界で異なる文化・習慣
- 07 JICA青森デスクから



「異文化理解」ってどんなこと？



青森中央学院大学
国際交流センター長
藤巻 啓森 教授
(ふじまぎ けいしん)

専門通訳者として活躍。
1986年に結婚後来日し、
98年に奥様の故郷青森へ
移住。青森明の星短大を
経て2015年から青森中央
学院大学で教鞭をとる。

青森県内には、2023年末現在で7,797人の在留外国人が住んでおり、人数は年々増加しています。今後、様々な生活の場面において、県民が外国人と接する機会はますます増えていくでしょう。こうした中、自分と異なる文化とどのように向き合っていくべきなのでしょう。

今回は「異文化コミュニケーション」を専門としている青森中央学院大学の藤巻教授にお話を聞きました。

異文化理解とは？

異文化理解とは、異なる文化背景を持つ人々の価値観・習慣・信念・行動などを理解し、尊重することをいいます。

県内の外国人住民は年々増加していますが、交流の機会が少なく孤立しやすい。そうすると他の住民に誤解や偏見が生まれ、差別や対立を引き起こしやすくなります。

異文化理解を深めることは「社会の調和」や「協力的な関係」の構築につながります。

異文化理解はなぜ必要ですか？

異文化理解が不足すると、誤解や偏見、対立が生じやすく、コミュニケーションの障害となります。些細な問題がきっかけで喧嘩になることもあるでしょう。

例えば、中国人は、健康に対する考えとして冷たい物を好みません。暑い時でも熱いお茶を飲みますし、ビールでさえ常温で飲みます。日本人は、暑い時には気遣いでお客さんに冷たい飲み物を出してくれます。しかし、中国人にとっては「冷たい物を飲ませるなんて嫌がらせだ」と気を悪くする人がいるかもしれません。

こうしたことを避けるため、他者の文化的な違いを受け入れ、自分自身の文化との違いを比較し、相互に学び合うことが必要です。

その際、「相手を理解しようとする」と「相手に理解してもらおうとする」。この双方向の行動が重要です。

青森県の現状は？

小中学校など教育機関での異文化理解への取組はまだまだ必要ですし、公共機関や観光施設などの多言語対応も不足しています。

台湾や香港では、青森の好感度はアジアの中でもとても高いそうです。観光や輸出のビジネスチャンスがあるのに、異文化対応が不十分だと青森の経済に対してもマイナスになります。

したがって、行政は、多文化共生の政策を強化し、地域住民の啓発活動を行う必要があります。言語サポートや行政手続の簡素化を図ることも必要です。

教育機関は、異文化理解を育む授業の導入や国際交流プログラムを促進し、お互いの文化を共有します。

こうした取組により、地域住民の意識が向上し、外国人と一緒に暮らしやすい地域になっていくと思います。

また、観光産業も発展し、地域経済が活性化して、外国人を大量に受け入れる会社が出てきます。外国人も地域に貢献できますから。

行政、教育、民間など、それぞれが役割を果たしていくことが必要だと考えます。

国際交流センターの取組について

本来、大学の国際交流センターというのは、海外の大学との交流や、留学生の派遣・受入れが主な取組ですが、本学は理事長が青森商工会議所の副会頭という事もあり、教育だけではなく産業経済も視野に入れた交流を行っています。イベントや講演会の企画をしたり、県内の小学校へ留学生をジョイント役として派遣したりと、長年、異文化交流を日常に浸透させるために取り組んできました。

留学生に期待すること

ゼミの学生の半分以上は留学生です。ゼミでは、例えば、冠婚葬祭、食事の作法、言葉などテーマを決めて、それぞれの国ではどうなのかと互いに教え合います。もし自分ができない事だとしても、彼らにとっては大切な事なのだから、是非、理解し、慣れて欲しいと思います。

卒業後は、日本で生活してくれたらいいですね。日本の企業に勤めて、日本で学んだことを活かすことを願っています。もちろん帰国しても構いませんが、その時は日本の文化を理解した上で、母国の人に日本という国を伝え、地元の教育や産業に活かしてくれたら嬉しいです。日本文化を経験した人が地元の言葉で地元の人に伝えるのは、説得力がありますから。

異文化理解が進むことによって地元住民と外国人住民と一緒に暮らしやすい地域が広がっていくことを期待しています。

異文化理解① 国際ふれあいフェスタinはちのへ

10/27(日)

八戸ポータルミュージアムはっち・八戸まちなか広場マチニワを会場に開催された国際ふれあいフェスタin八戸。

好天にも恵まれ、オープニングから多くの来場者が詰めかけ、賑やかにスタートしました。はっちは日本文化・外国文化、それぞれを楽しめる体験ブースとして、まさに異文化交流の場となり国籍の異なる多くの人々の笑顔で溢れていました。

マチニワステージではカラオケショーや各国のダンスバトル・ファッションショーが行われたほか、在住外国人をパネリストに迎えたパネルディスカッション「ここがヘンだよ青森県」も会場の笑いを誘っていました。



「ここがヘンだよ青森県」のパネリスト達

青森県観光国際交流機構ではマチニワ1階の一角にブースを出展、主に外国人相談窓口と交流型日本語教室について紹介し、当日の即席相談も受け付けました。他にも、青森県やJICA青森デスクなどの団体者ブースもあり、国際交流に興味を持つ来場者が足を止めて、スタッフと熱心に話し込む場面も見られました。



フィリピンのバンブーダンス



習字体験や衣装試着ができるブース

異文化理解② 日本に住んでみて

外国の方に、日本に住んでみて知ったこと、母国との違いに戸惑ったことを聞いてみました。これは逆に日本人が海外へ行った場合にもカルチャーショックとなるかもしれません。その国の習慣を受入れ、尊重することが国際交流・異文化理解の鍵となります。

- ◆なんのためらいもなく裸になって、知らない人と一緒に入る温泉にはびっくりしました。でもタトゥーがあるだけで入れないというのはフェアじゃないと思います。(アメリカ/男性)
- ◆青森に来てびっくりしたのは、雪が積もっていても自転車に乗るお年寄り。雪の上を歩くのも怖いのに、フラフラとゆっくり自転車に乗るおじいちゃんには心配してしまいます。(フィリピン/女性)
- ◆最初のうちは、日本人が水をじゃぶじゃぶ使うのにとっても抵抗がありました。オーストラリアでは小さな頃から水を大事に使う節水の意識が根付いています。お皿を洗う時でも流水で流さず泡を拭き取ったり、そのまま乾燥させて終わりです。(オーストラリア/女性)
- ◆ロシアの学校の夏休みは3か月あります。その間1か月は親元から離れてサマーキャンプに参加したりします。でも冬休みは特にありません。日本の夏休みはとても短いと思います。(ロシア/女性)
- ◆大きな声で話をする人が多い中国に比べると日本は大人しい印象を受けました。中国では声が大きいというのは「元気」「朗らか」「賑やか」という良い印象で、どこにいても大きな声で話す人が多いです。(中国/女性)
- ◆フィリピンでは食べ物を完食せずにちょっと残すのが礼儀です。日本で友人宅に呼ばれてご馳走になった時、同じように残してしまいました。それが失礼なことだと知ったのは後になってからです。(フィリピン/女性)

国際理解講座～韓国・タイ～

7/27(土)

令和6年度国際理解講座「世界をのぞいてみよう～韓国・タイ～」を開催しました。

韓国の講座では、兵役や居住環境について紹介したほか、タイの講座では、観光や食について詳しく聞くことができました。

終了後のアンケート調査では「異文化の具体的な事例を聞くことができる貴重な機会となった」「さらに興味が広がった」等の感想が寄せられました。



韓国の講座の様子

交流型日本語教室「防災」

8/10(土)

青森市東部市民センターで行われた交流型日本語教室は、「防災」をテーマとし、青森市、青森消防本部の協力のもと「やさしいにほんご」を使いながらの地震体験やAED体験、防災グッズやアプリの紹介など盛りだくさんの内容となりました。



消防隊員の話に真剣に耳を傾ける参加者

日本語指導サポーター養成講座

9/7(土)

およそ2か月にわたって青森大学で開催された「日本語指導サポーター養成講座」が終了し、27名の方が日本語指導サポーターとして登録されました。今回の講座では、日本語指導に携わる他県の著名な先生が講師を務め、様々な角度から日本語指導について学びました。



受講生による模擬授業

韓国・済州道ねぶた来青 8/2(金)～8/6(火)

8月、青森市で開催された青森ねぶた祭に、青森県と姉妹協定を締結している韓国・済州特別自治道の前ねぶたが参加しました。

前ねぶたの題材は「トルハルバン」で、済州の方言で「石のおじいさん」という意味です。トルハルバンは、済州道の守り神として住民に親しまれており、済州道内のあちこちで見ることができます。



済州道の前ねぶた「トルハルバン」

第1回日本語教育総合調整会議

9/24(火)

県内の実情に沿った日本語教育を推進することを目的とする有識者会議「日本語教育総合調整会議」の第1回目がアスパムで開かれました。

会議では、主催者である県から、これまでの県内での日本語教育への取組について報告があったほか、今後、上北地域など留外国人が多い地域での日本語教室の開催などについて検討が行われました。

生活習慣の違いについて、こんな相談がありました

Q. 先日、町内会費の集金が来ました。町内会とは何ですか？町内会費は何のために払うのですか？
(相談者：県内在住の中国人)

A. 町内会は、地域の集落などの住民で構成された団体で自治会ということもあります。町内会では、市役所や町村役場など行政の配布物を回覧板として各戸に回したりするほか、様々なことをしており、その活動に必要な費用を地域住民から集めているのが町内会費です。

町内会費は、お祭りや地域行事、ごみ集積場の管理などの運営に必要な経費として使われます。基本的には町内会への参加は任意となりますが、詳しい活動内容等は、地域の町内会に聞いてみてください。

外国人相談窓口について

「青森県外国人相談窓口」では、青森県内に住む外国籍の住民を対象に、日常生活での困りごとをサポートするため、相談窓口を開設しています。18か国語で対応できます。

また、「3者通話による通訳サービス」では、行政などの各種相談窓口、外国人住民、当機構の通訳相談員が同時に繋がり、通訳を介して相談することもできます。

周囲の外国籍の方にぜひお知らせください。

❖ 相談対応曜日・時間・場所

火～土（日、月休み）10：00～17：00
(日曜日に開催するワンストップ相談会を除く)
青森県観光物産館アスパム2階 国際交流ラウンジ

❖ 相談方法

対面
TEL / 017-718-5147 (3者通話通訳サービスを含む)
SNS / WeChat、Facebook (Messenger)、WhatsApp
(右の二次元コードからアクセスしてください)
E-mail / lounge_supporter@aomori-kanko.or.jp
※相談後必要に応じて、同行通訳(1回のみ)が可能です。

相談員がいる曜日

中国語 / 火～土
タガログ語 / 火、木、金、土
英語 / 火、木、金、土



WeChat



Facebook (Messenger)



WhatsApp

世界で異なる文化・習慣 ～プレゼント・ギフト編～

あなたは臭い!?

石鹸や香水をプレゼントすることは、イタリアやフランスでは「あなたは臭い」「汚いから洗ってください」なんて意味になることがあるので、注意が必要です。

プレゼントを返品?

アメリカにはギフトレシートというものがあります。金額がわからないように購入証明書を付けてプレゼントし、気に入らない場合は返品できます。合理的ですがちょっと切ないですね。

その場で開けない

フィリピンやタイではもらったプレゼントは後で開けるのが習慣です。その場で開けると「がついている」と思われちゃうかも!?

恋人に靴はNG

韓国やフィリピンでは「去っていく」「離れる」「逃げる」という意味のある靴は、恋人には贈らない方がいいでしょう。

ハンカチはタブー

フィリピンでは「不幸や別れを連想させる」、中国では「涙を誘う」、ベトナムでは「困難」と発音が似ているとしてプレゼントしません。

時計は避けましょう

中国で時計は「鐘」と書きます。「鐘」の発音は「終」と同じことから不協和音と短命を意味し、とても不吉で失礼になります。

母の日に菊の花!?

日本では故人の花とされる「菊」ですが、オーストラリアでは母の日にあげる花です。ロシアではカーネーションが故人の花だそう。

牛革も要注意

ヒンズー教の人にとって、牛は神聖な生き物のため、牛肉はもちろん牛革の製品も贈ってはいけません。

青森から世界へ!

本県からJICA海外協力隊2024年度1次隊として

5名が派遣されました!



<1列目左から>

佐々木暢さん（青森市／ケニア／青少年活動）
 駒澤愛さん（鮭ヶ沢町／タイ／陶磁器）
 小谷副知事
 南菜穂香さん（八戸市／ラオス／看護師）
 戸賀沢未来さん（南部町／マラウイ／
 障害児者支援）
 鎌田裕子さん（八戸市／ナミビア／
 小学校教育）

<後列左から>

青森県青年海外協力協会の工藤事務局長
 JICA東北の花立所長
 青年海外協力協会の大賀氏

JICA教師海外研修へ本県から2名の先生が
 ザンビアへ!

毎年7月に実施されるJICA教師海外研修。
 学校の先生方をJICA事業が実施されている国
 へ派遣させて頂き、実際に世界の現場を体験
 し、日本の教育現場に活かしてほしいという目
 的のもと実施しております。



10月5日（土）、スタートアップセンター青
 森にてJICA海外協力隊募集説明会を開催しま
 した!

当日は約20名の方々にご参加頂き、JICA海
 外協力隊についてやその後のキャリア選択な
 ど、様々なテーマでお話しをする事ができま
 した。単なる説明を聞く機会ではなく、国際協
 力に興味関心のある方々との繋がりなども創
 る機会になりますので、次回開催時にもぜひご参
 加下さい。

★JICA海外協力隊について知りたい!★

連絡先：jicadpd-desk-aomoriken@jica.go.jp

(JICA青森デスク 阿部)

所 在：青森県観光物産館アスパム2階グローバルラウンジ内



これからのイベント

交流型日本語教室（弘前市） 10：00～12：00 弘前文化センター3階 第一工作室
 ・11/24（日） ・12/15（日） ・1/19（日） ・2/16（日） ・3/16（日）

交流型日本語教室（青森市） 18：30～20：30 青森県観光物産館アスパム8階 しらかみ
 ・12/5（木） ・12/19（木） ・1/16（木） ・2/6（木） ・2/20（木） ・3/6（木）

青森中央学院大学 まちなかキャンパス 公開講座2024「異文化理解講座」

「ベトナムの風習と祭り：地域文化の物語」 講師：青森中央学院大学 経営法学部 LE TU NGA
 12/20（金） 18：00～19：30 青森中央学院大学7号館1階フリースペース、FRIENDLY WINDOW

「不思議の国・トルクメニスタン」 講師：青森中央学院大学 経営法学部講師 里見文
 1/24（金） 18：00～19：30 青森中央学院大学7号館1階フリースペース、FRIENDLY WINDOW

日本語パートナー養成講座 青森県観光物産館アスパム8階 しらかみ
 2/8（土） 9：10～16：30 ・2/9（日） 13：00～16：30（全2日間）

外国人相談支援スキルアップ講座 ～在留資格と外国人雇用の基礎知識を学ぶ～
 2/20（木） 10：30～12：00 青森県観光物産館アスパム4階 十和田

県内の日本語教室

地域	団体名	電話番号	E-mail
青森市	青森日本語クラブ	017-782-1171	aomori.nihongoclub@gmail.com
	国際文化交流クラブ (ICEC)	090-7660-1583	potlucksmore@yahoo.co.jp
	日本語学習支援「青い森」	090-3360-6541	yuyu64asayu@gmail.com
弘前市	弘前日本語クラブ	090-4049-0057	hnc1900@yahoo.co.jp
	弘前日本語ティールーム	090-5842-0672	hirosakinihongotearoom@hotmail.co.jp
	国際にほんご教育センター (IJEC)	0172-38-7707	i.nihongo.e.c@ijec.jp
	ひろだい多文化リソースルーム	0172-30-9145	info@hirodaimrr.or.jp
八戸市	みちのく国際日本語教育センター (MIJEC)	080-6051-3109 080-6026-3109	michinokunihongo@gmail.com
三沢市	みさわ国際交流協会	080-6022-1349	misawa.mia@outlook.jp
六ヶ所村	国際教育研修センター	0175-73-8575	rokkasho.lounge@gmail.com
おいらせ町	たすけあい・さわやか青森	0178-52-8067	sawayakaomori@yahoo.co.jp
南部町	南部町国際交流センター	0178-38-5961	noson@town.aomori-nanbu.lg.jp

国際交流ラウンジ International Lounge
 〒030-0803
 青森市安方1-1-40 青森県観光物産館アスパム2F
 ASPAM BLDG. 2F. 1-1-40. Yasukata, Aomori-shi.
 030-0803
 TEL：017-718-5147 FAX：017-735-2067
 E-mail：lounge_supporter@aomori-kanko.or.jp
 ※国際交流ラウンジカウンター／外国人相談窓口
 受付時間／10：00～17：00
 休 日／毎週日曜日・月曜日
 年末年始（12/31～1/3）、アスパム休館日

編集・発行 Publisher
 公益社団法人青森県観光国際交流機構
 国際交流グループ
 〒030-0803 青森市安方1-1-40 青森県観光物産館アスパム8F
 TEL／017-735-2221 FAX／017-735-2067
 E-mail：info_kokusaikoryu@aomori-kanko.or.jp

当機構への
 アクセスは、
 右記QRから
 どうぞ！

HP



Facebook

